

応急組立橋（ワーレントラス形式）

設営場所の条件により、施工計画が必要です。

機械の機能

河川の増水、地震、土砂崩等の災害で橋梁が使用できなくなった場合に、早期に交通路を確保するための仮橋として使用します。

全ての部材がトラックとトレーラに積載できるので、トレーラが通行可能であればどこにでも運搬できます。

最小橋長18mから最大50m（最大支間長50m）まで4m毎に橋の長さを変えることができるので、現場条件に応じて設置することができます。

「トラスガーダ形式」に比べて部材の数が少ないため、部材管理が容易です。



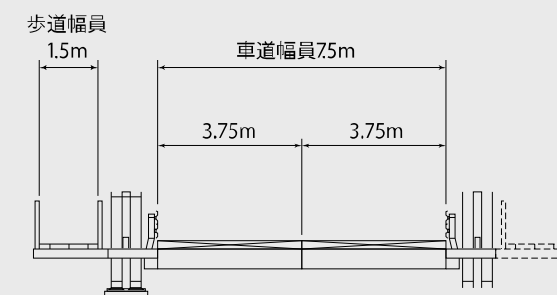
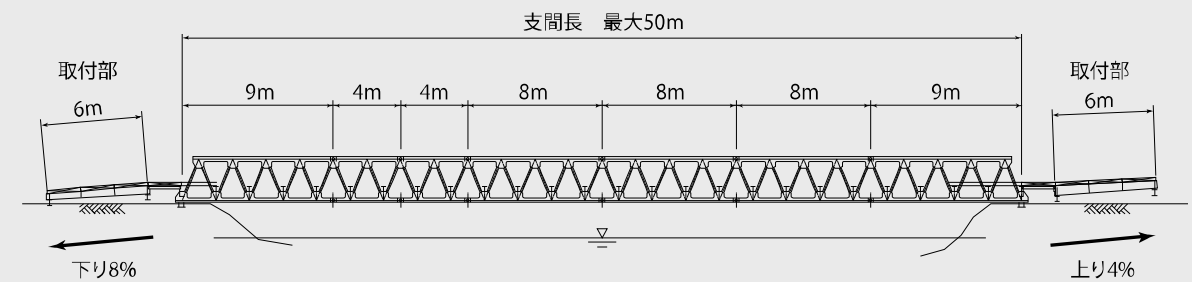
現地設営条件

- ◎ 架設現場まで部材の輸送が必要です。
- ◎ 架設現場には部材の仮置ヤードが必要です。
- ◎ 仮置ヤードへの進入路は、25トレーラが進入できるように整地が必要です。
- ◎ 架設を行うためには、橋台、橋脚及び付近の整備が必要です。

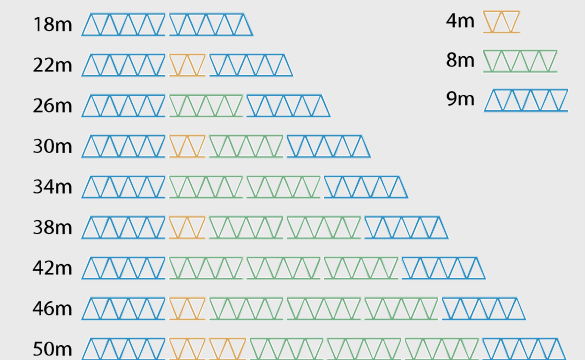
機械の諸元

主要諸元		
形式	組立式ポニーワーレントラス下路橋	許容たわみ度 L/400以下
支間長	支間長50m 取付部：6m×上下 全長62m	許容応力度 道路橋示方書の25%増し
最大部材寸法	長さ9.6m×幅2.6m×高さ0.9m	架設工法 トラッククレーンによる架設工法及び手延機による送り出し工法
重量（主桁）	9,329kg	最短組立期間 クレーンによる一括架設工法 : 約30時間 クレーンによるベント架設工法 : 約46時間 ※支間長50m 手延機による送り出し架設工法 : 約40時間
道路規格	第3種 第2級相当	設計荷重 B活荷重
幅員構成	車道：7.5m 歩道：1.5m	

外形図



最小18mから4m毎に最大50mまで架設可能



支間長及び主桁構成表